



さとのかぜ NO. 154

千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

3月号 2008年3月1日発行

編集・発行 千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

〒298-0111 千葉県いすみ市万木 2050 番地

TEL 0470-86-5251 FAX 0470-86-5252

URL <http://www.isumi-sato.com/>

探鳥で環境の変化を観る



< 『干潟の鳥たち』より >

たんちょうかい
◇探鳥会にでかけてみましょう。

探鳥会をはじめとする自然観察の集まりは、自然の中を歩き、自然のしくみを体験できる場所として、また、身近な環境に目を向け、自然保護について考え、実践する人を増やすきっかけをつくる場として、自然を守ることに對するこだわりを持っています。

< 参考文献 「今日から始めるバードウォッチング」 (日本野鳥の会・編) >

2月のセンター行事

- ・『干潟の鳥たち』（10日）
- ・『つるでかごづくり』（24日）

《干潟の鳥たち》

◇バードウォッチングから大自然の扉を開く！

バードウォッチングは、イギリスで始められ、アメリカやヨーロッパ各国で広く行われているようで、日本でも昔から花鳥風月を風流に楽しんできたようです。現在は、環境問題への関心の高まりと共に、環境の変化に敏感な野鳥の観察が盛んに行われるようになってきています。そこには、専門的な知識や技術を必要とせず、どこでも、だれでもが気楽に楽しめるという良さがあります。ここ2、3年続いて当センターのスポット地区（トンボの沼）に渡来している冬鳥のコハクチョウは、一つの家族を単位にして渡って来ているらしく、一羽の雄と一羽の雌からなるつがいに何羽かの子供がついているようです。ハクチョウは、一度夫婦になると相手が死なない限り相手を変えないという習性を持っているそうです。このコハクチョウたちは、地域の人たちばかりでなく、遠方の人たちにも大きな興味関心をもって迎えられ、大きな望遠レンズを取り付けたカメラを持って、早朝から沼の回りの木道に陣取って辛抱強くシャッターチャンスをおぼろげにうかがっている様子がよく見られます。この辺りにはダイサギなどの白い鳥が多く見られますが、水面に静かに浮かぶ優雅なコハクチョウの姿の方がより魅力的なのではないでしょうか。バードウォッチングは、科学であったり、芸術であったり、気晴らしであったりと、人によって異なったアプローチの仕方があるものですが、これをきっかけにした大自然の営みへの関心の高まりが期待されます。

◇冬鳥たちの楽園を巡る

当日は、好天に恵まれ、ネイチャーセンターに集合後、それぞれ自家用車で観察場所へと向いました。持ち物は、双眼鏡、野外用望遠鏡、フィールドガイドです。最初は、いすみ市岬町椎木地区の「椎木堰」へと向いました。途中、椎木の住宅街で、越冬しているツバメが見られるということで、電線にとまっている2羽のツバメが観察できました。夕方になると人家の軒下に集まってくるそうです。今時、餌になる昆虫等も少ないと思われ、心配してしまいます。

「椎木堰」は、毎年たくさんの冬鳥がやってくる場所で、近くの水路では、アオサギやカワセミが見られ、歓声があがりました。堰に着くと、そこでは、コガモ、マガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、ホシハジロなどの群れやミサゴが観察できました。ところで、ホシハジロの名前の由来は、江戸時代前期には「ボッチハ



ジロ」や「アカガシラ」などと呼ばれ、後期からは「ホシハジロ」や「カキハジロ」などとも呼ばれるようになったようで、ボッチやホシは、背や腹の細かい横斑模様のことを指しているそうです。ここでは、講師のいすみ市大原在住の布留川毅氏（千葉県海の博物館長）から、「潜るカモ（潜水採餌ガモ*海ガモ…ホシハジロ、キンクロハジロ等）」と「潜らないカモ（水面採餌ガモ*淡水ガモ…コガモ、マガモ、ハシビロガモ等）」の違いなどについて詳しく説明して頂きました。

さて、次の観察予定地の「浅間堰」（中原地区）に移動する途中の水田には、ハクセキレイやツグミなどが観察できました。ハクセキレイは、最も普通に見られるセキレイですが、奈良時代から「イシタタキ」等と呼ばれていた鳥の代表格で、もともと川の河口付近に生息しているようですが、現在では湿地から田畑、住宅街の公園まで広く生息している鳥です。浅間堰では、主に白い額板（上嘴の基部から額にかけての羽毛のない硬い部分）が特徴のオオバンが観察できました。額板の赤いバンは、水田の近くに住み田から離れないので田の番をする鳥という意味でこの名前になったそうですが、オオバンは、バンより二まわりほど大きいということが名前の由来のようです。

次は、太東崎灯台の南側、和泉地区の夷隅川河口の左岸に広がる潟湖（ラグーン）です。ここには、コガモ、ヒドリガモ、カルガモ、ホシハジロ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、オオバン、ウミウ、カワウ、アビ、イソヒヨドリ、ミサゴ、ダイサギなどが、干潟には、ハマシギやシロチドリなどが餌をついばんでいました。ここでは、カワウとウミウの見分け方を講師から、図を使って説明して頂きました。ウミウは減少しているそうです。

最後に太東崎灯台から東に広がる海を見ると、そこには、カンムリカイツブリやヒメウなどが波に身をまかせて浮かんでいるのが観察できました。普段は、ユリカモメやウミネコなどが見られるそうです。今日は、主にカモの観察をして頂いたのですが、講師の含蓄に富んだ楽しく充実したお話を聞くことができ、皆堪能していました。（渡邊美利）

《『つるでかごづくり』（第2回）》

昨年12月初旬の第1回目に続いて、希望者が多いために第2回目を設定してきました。

講師は、いすみ市万木在住の尾形信保氏です。当日は強風でしたが、晴れていて太陽の光が救いでした。午前中は、材料となる「つる」の採集をして、午後から制作にかかるという計画で進めました。採集したのは、しなやかで丈夫な「クズ」のつるです。制作したのは、直径40cm程のざるです。基本的な制作方法が分かると、形状や大きさは、個々の望む用途によって異なります。取っ手を取り付けるのも自由です。装飾を考えて工夫を凝らす人もいます。こうして、それぞれが想定した作品に近いと思われるものが完成し、満足そうでした。（渡邊美利）



和泉-日在浦だより地球温暖化と海洋大循環 (3/1)

[春の先駆け]

鶯が啼き始め 春一番が吹き、農耕の準備も始まり 日が長くなりました。梅や椿の花に混じりコブシの萌黄色の新芽が膨らみ、露地栽培のソラマメやキャベツの緑も目に鮮やかで春の息吹を感じます。コガモの啼き声が頻繁に聞こえ 太平洋



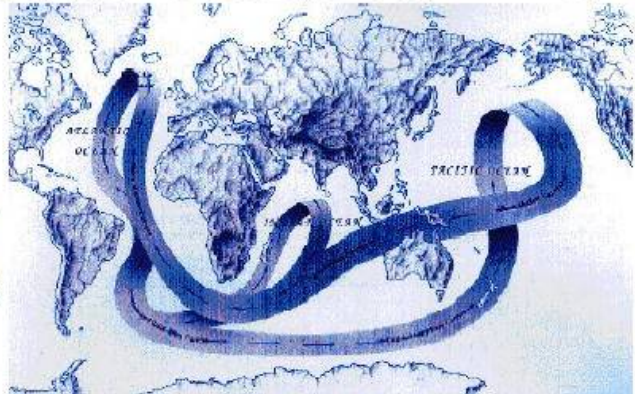
河口で乱舞する鷗たち (塩田川河口 2/18)

から打ち寄せる離岸堤前の波間にはカルガモが漂う機会が増えました。日在湯や和泉湯の干潮時にはヒドリガモやコガモが泥中の餌を啄むのに懸命です。

[海について考える_海洋大循環]

海洋大循環は「海水の流れが温度差と塩分濃度の差により地球規模で駆動され、およそ1000年かけて世界の海を一巡する」というものです。現実には海洋で表層水が深層に達するまで強く沈降している場所は、北大西洋のグリーンランド沖と南極近くの

ウェッデル海に限られることも分かっています。深層水的主要な通り道は太平洋、大西洋、インド洋の西岸境界に偏っており、深層にあった古い深層水はやがて湧昇して表層海洋を運ばれ、再び深層水の形成海域である大西洋や南極海に戻ってゆきます。図のモデルはWallace Broecker博士により1987年頃に提唱され「ブロッカーのコンベアベルト」と呼ばれています。『海洋大循環のお陰で地球の気候は安定がある』と言われていました。(参考資料:東大地球惑星物理学科WebSite「海洋大循環」)



Broeckerの海洋大循環モデル (Courtesy:NHM)

[気候変動と気候変化]

升本順夫准教授(東大地球惑星物理学科 Yukio Masumoto)に質問したところ、気候変動と気候変化の二つを混同しないで使い分けるべきで、例えば数年に一度発生する太平洋熱帯域のエルニーニョ現象は「気候変動」であり 予測した場合の検証が可能な一方、地球温暖化は「気候変化」に属し「100年後に気温が4℃上昇する」といわれなくても検証する術がなく、数値解析結果等が検証されずに一人歩きしないよう注意すべきとのことでした。

地球温暖化が進み海洋大循環が止まると地球は寒冷化して氷河期が来る、あるいは温暖化が加速化して極地の氷が急激に融解して海面が上昇する等の「気候変化」は、地球の気候システムに与えられる外からの強制に伴う変化とも言うべきものであり、「極端現象」なので我々の想像範囲を超えないけれども発生する可能性が非常に低い現象という発表があります。

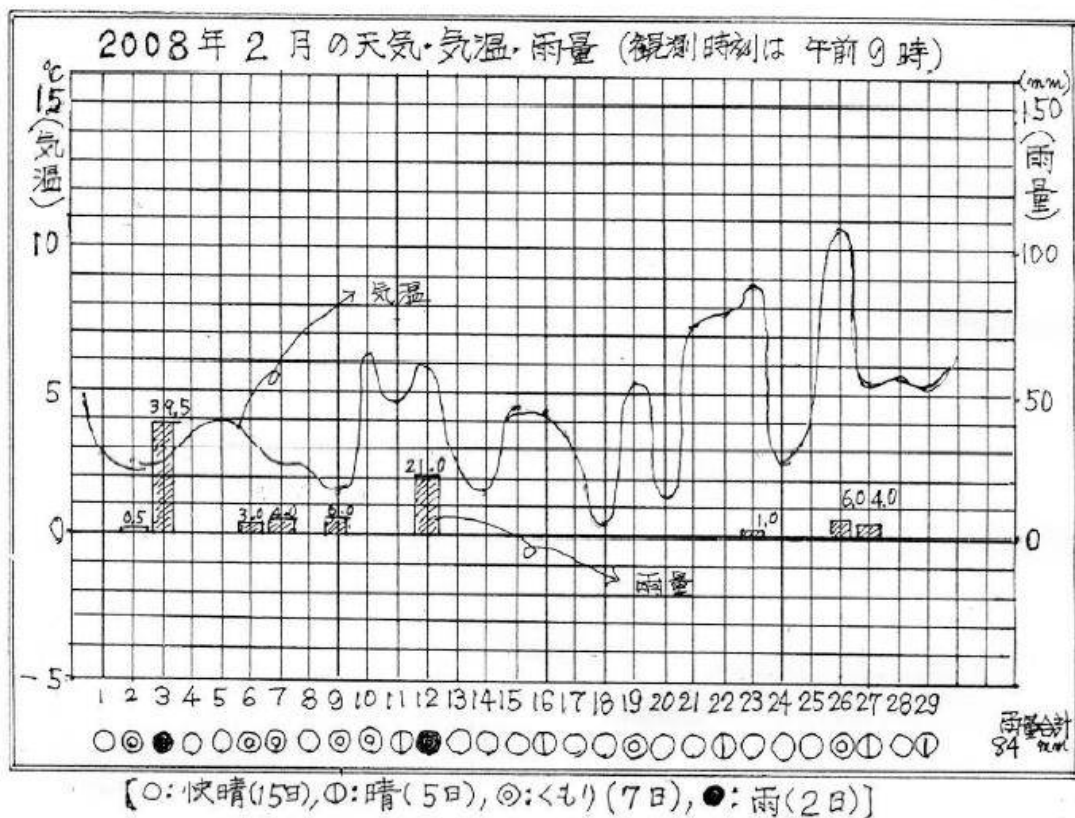
[地球環境に果たす海の役割は大きい_地球温暖化問題]

ここ数年、世界各地で熱波、洪水、砂漠化、氷河の縮小などにより人間社会や様々な生物に被害をもたらしていることが大きく報道され、地球温暖化の影響として懸念されています。地球環境問題の解明のためには、地球表面積の70%を占める海から考えてゆく必要があるでしょう。 [森谷 淵(もりや ふかし)]

◎今、いすみでは??? 「いよいよ春か?」

2月、3月には風の強い日が多く、良く「春一番だ」とか「春二番が吹いた。」とか、言われます。講談社の日本語大辞典によると「『春一番』とは、早春のころその年初めて吹く強い南風、冬の季節風が弱まり、気温が上がって春らしくなる。」とありました。

当センターの記録によると、2月13日の9時の観測時刻の風速は、8m/s（風力5）で、その日の瞬間最大風速は「15m/s」でした。しかし、気温は前日や前々日よりむしろ低くて、特に風向きは「北」でした。また、千葉日報の、08年2月24日の新聞によると、「気象庁は……関東では23日、春一番が吹いた。昨年より9日遅い。日本海の低気圧が発達しながら東北東へ進んだ影響で、関東南部を中心に南寄りの風が強まり、気温も東京で四月上旬並みの17.0度まで上昇した。……」と報じていました。23日については当センター9時の観測では、風速は0.5 m/s（風力1）でしたが、気温は8.8℃で前日より1℃高く、当日の最高気温は、15.8℃で22日の16.6℃には達しなかったが10℃を超える気温を示しました。しかしながら、風向は南でなく北でした。24日は風向は「北」でしたが、風速は9時に「14m/s」であり、その日の瞬間最大風速が「17m/s」を示したので、この時が「春一番」であったものと思います。その後、25日、27日も風力が、「5」や「4」を示していたので、いよいよ春本番なのだと感じました。28日には、ニホンアカガエルが卵塊5ヶ所とトウキョウサンショウウオの卵塊を2ヶ所発見しました。（芝崎昌彦）



3月の行事案内

☆『炭焼きに挑戦しよう』 定員20名
 日時 3月1日(土)～2日(日)
 1日(9:00～綻)、2日(13:00～15:00)
 参加対象 中学生以上(中学生は保護者同伴)
 場所 センター地区(雨天延期3/15～16)
 集合 ネイチャーセンター 9:00
 持ち物 軍手、うちわ、懐中電灯、空ペット
 ボトル(500ml程度)、お弁当、
 作業のできる服装、長靴、帽子

☆『春の星座を見てみよう』 定員20名
 日時 3月8日(土) 18:00～20:30
 場所 ネイチャーセンター (雨天順延)
 持ち物 懐中電灯、寒くない服装

《4月の行事予定》

◇『里山ハイキング』 定員30名
 日時 4月20日(日) 9:30～15:00
 場所 荒木根ダム・大野城址周辺
 (いすみ市大野地区)
 集合 ネイチャーセンター 9:30
 持ち物 お弁当、飲み物、山歩きのできる
 服装 (雨天の場合4/27)

※3月1日(土)午前9時から、5月
 の行事申し込みを受付けます。



いすみ楊枝

—千葉県伝統的工芸品—

日時 3月16日(日) 9:30～16:30
 場所 ネイチャーセンター
 講師 高木 守人氏
 参加料 無料(材料費実費負担)
 内容 楊枝・花入れ・茶杓作り

センターでは、千葉県伝統的工芸に指
 定されている「いすみ楊枝」を、県内外
 に広く紹介するために毎月1回、高木守
 人氏に実演をしていただいております。
 次回は、4月20日(日)の予定です。

《5月の行事予告》

◇『米づくり・田植えをしよう』 定員30名
 日時 5月4日(日) 9:30～14:00
 参加対象 小学3年生以上(雨天順延)
 場所 センター地区 生態園(水田)
 持ち物 お弁当、飲み物、着替え
 ◇『山田の鍾乳石と鉄造仏頭をめぐろう』 定員30名
 日時 5月11日(日) 9:30～15:00
 場所 いすみ市山田地区
 持ち物 お弁当、飲み物、山歩きのできる
 服装 (雨天延期 5/18)
 ☆『ゲンジボタル観賞の夕べ』 定員20名
 日時 5月25日(日) 18:00～20:00
 場所 スポット7 ホタルの里 (いすみ市山田地区)
 集合 ネイチャーセンター 18:00 雨天中

行事への参加申し込み、お問い合わせは、電話(0470-86-5251)または、
 直接センター事務室にお申し出ください。定員のあるものについては、定員になり次第
 締め切らせていただきます。あらかじめご了承ください。

*FAX可(FAX番号:0470-86-5252)

*eメール可(メールアドレス:info@isumi-sato.com)

*行事申し込み後、都合によりキャンセルする場合は必ずセンターまでご連絡下さい。

※「さとのかぜ」の定期購読を希望される方は、郵送料として、80円切手12枚、また
 は、960円にて受け付けます。

◆◆◆◆ 利用案内 ◆◆◆◆

休館日:毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12月29日～翌年1月3日
 開館時間:9:00～16:30、 入館料:無料

なお、団体で案内や解説などを希望される場合は、2週間前までにお申し込み下さい。